

小学校の指導改善プラン（学校用）番町小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題		○成果	▲課題
第4学年		第5学年	第6学年
国語	○知識・技能の観点で区の平均を上回っている。 ▲思考・判断・表現の領域が平均を2.7ポイント下回っている。今後は、分からない言葉を国語辞典で調べたり、自分の言葉で考えをまとめたりする活動を充実できるようにする。	○全ての観点、領域共に区の平均を上回っている。 ▲前年比としてB層が8%減少、D層が11%増加しており、二極化が窺える。基礎の定着に向け、音読、辞書引き等、漢字や言葉の学習を行い、語彙力、読解力が身に付く指導をする。	○知識・技能の観点で区の平均を上回っている。 ▲思考・判断・表現の観点で区の平均を3.6点下回っている。自分の考えをノートやICTを活用して端的にまとめ、他者に分かりやすく説明する活動を充実できるようにする。
社会	○「歴史と人々の生活」の領域で区の平均を上回っている。 ▲知識・技能や思考・判断・表現の観点で区の平均を下回っている。今後は、課題解決に向けて、ペアやグループでの話し合い活動や教え合いなどの協働的な学びを充実できるようにする。	○全ての観点、領域共に区の平均を上回っている。 D層が7パーセント減少しており、意識調査からも、肯定的な回答をした児童の割合が前年度より著しく増加している。今後も、社会的事象についての具体的な資料の読み取りと、課題に対して調べたこと、分かったことを生かしながら考えを整理し表現することを指導する。	○「地理的環境と人々の生活」の領域で区の平均を上回っている。 ▲全ての観点において区の平均を下回っている。今後は、課題に対して資料から読み取ったことや自分で調べたこと、新たにうまれた課題についてICTを活用して整理したり説明したりする活動を充実できるようにする。
算数	○全ての観点で区の平均を上回っている。 ▲図形の領域が区の平均を3.5ポイント下回っている。今後は、児童が自分の考えを文章や式、図や表などを組み合わせて、説明する活動を充実できるようにする。	○全ての観点、領域共に区の平均を上回っている。 ▲前年比として、A層が6%増加、D層が5パーセント増加しており、二極化が窺える。習熟度に応じた指導を行い、着実に知識・技能を身に付ける指導をする。	○A層・B層の割合が前年度に比べて5.4ポイント増加している。 ▲思考・判断・表現の観点で区の平均を下回っている。今後は、自分の考えを言葉や式、図、表を用いて説明する活動を充実できるようにする。
理科	▲全ての観点や領域で区の平均を下回っている。今後は、見方・考え方を働かせながら、実験や調査の前に仮説を立てて結果を予想したり、結果を基に考察したりする活動を充実できるようにし、基礎的な学習内容の定着を図る。	○全ての観点、領域共に区の平均を上回っている。 前年比として、A層が14%増加、D層が7パーセント減少しており、意識調査からも、肯定的な回答をした児童の割合が前年度より著しく増加している。今後も、主体的に問題を見出し、観察・実験等を行い、問題解決の力を養う。	○A層の割合が増加している。 ▲全ての観点・領域において区の平均を下回っている。今後は、理科の見方・考え方を働かせながら根拠のある仮説を立てる活動や、実験結果から新たな問題を自ら提起し解決していく活動を充実できるようにする。
授業改善の方針			
国語	・思考・判断・表現の力を育成するために、「思考を可視化し、説明する活動」の充実を図る。具体的には、①課題に対して自分の意見・理由・具体例を記述・図式化（マインドマップやフローチャート等）する、②ペアで説明し合う、③相手の反応や質問などのフィードバックを受けて考えを整理し、文章にまとめる、などの流れで行う。これらの活動にICTを活用することで、他者との考えの共有や協働を促し、学習内容への深い理解と高い表現力の育成を目指す。		
社会	・児童が、自ら問題解決の見通しを立てて、資料を多角的に読み取り、整理してまとめる活動を構成していく。 ・地域や時事の状況など、児童により身近な教材・資料を提示する。また、調べる活動だけでなく、情報を整理やまとめる活動、学習を振り返る活動においても、ICTを活用する。		
算数	・論理的思考力を育成するために、児童が自分の考えを言葉、式、図、表、記号等を用いて表現し、他者に筋道立てて説明する活動を取り入れる。また、対話を通して、多面的な見方・考え方ができるように授業をデザインする。 ・ICTの活用により、視覚的な手立てを施すことで、特に算数を苦手とする児童がイメージ化しやすくなるように工夫する。		
理科	・見方・考え方を働かせながら、実験や調査の前に仮説を立てて結果を予想したり、結果を基に考察したりする活動を充実するようにして、基礎的な学習内容の定着を図る。 ・実証実験を基に、予想から結果、その考察のプロセスを踏みながら学習が行えるように工夫する。		
音楽	・演奏したり歌ったりしていくとともに取り扱う教材の曲想、構造や歌詞の内容などを知識としておさえることで、より深く楽曲を理解できるようにする。 ・様々な楽器に触れる機会を設けることで学習に対する意欲を高め、器楽における学習ではスモールステップで無理なく確実に技能を習得できるようにする。		
図工	・学習のめあてを明確にし、自分のイメージに沿って表現方法や材料選びができるようにサポートする。 ・制作毎に鑑賞の時間を設け、自分の作品だけでなく友達作品からも学びが得られるようにする。		
家庭	・学校で学んだことを日常生活に生かしたり、日常生活での経験を学校での学習に生かしたりする機会を設けることで、経験と学びを密接に結び付けながら児童の意欲を高めていく。 ・ICTを活用し、学習内容を適宜復習できるようにしていく。		
体育	・体育科の見方・考え方を働かせながら、領域ごとの運動の特性や楽しさを十分に味わえるように、単元を通して学習過程を工夫する。児童の実態から適切な学習内容は何か、自己の能力に適した課題は何か、個別最適な学びを充実できるようにする。また、児童自らが規則やルールを設定したり、自己の学習課題に合わせて練習内容や練習の場を選択できるように学習環境を整えたりすることで、児童が主体的に取り組めるようにする。		
外国語	・授業の前に、ALTとの打ち合わせをより綿密に行い、活動に応じた明確な役割分担を行ってから授業に臨む。 ・児童が多く発話をする活動を通して、英語でのコミュニケーションが楽しいと思える授業にする。		